

令和2年度
「魅力ある学校づくり地域協議会」
活動事例集



第6号 令和3年3月

宇都宮市教育委員会 生涯学習課

目 次

◎活動事例集について	1
◎魅力ある学校づくり地域協議会って？	2
◎活動事例	
御幸小学校地域協議会	5
宝木中学校地域協議会	6
岡本小学校地域協議会	7
東小学校地域協議会	8
御幸が原小学校地域協議会	9
姿川第一小学校地域協議会	10
瑞穂野中学校地域協議会	11
篠井小学校地域協議会	12
宮の原小学校地域協議会	13
平石中央小学校地域協議会	14
田原小学校地域協議会	15

活動事例集について

本市の「魅力ある学校づくり地域協議会」は、国の「コミュニティ・スクール」の学校運営参画機能の一部を有し、保護者や地域住民が学校の課題や取組に対する意見交換を行うとともに、学校運営に反映するための協議を行う機能を備えています。

この機能に加え、本市の魅力ある学校づくり地域協議会では、その話し合いの結果を受けて、協議会が自らの実践的な活動に結び付ける機能を併せ持っています。具体的には、国の「地域学校協働本部」の機能を取り入れ、地域の教育力を生かした学校教育の充実に向けた活動を実践するものであり、学校教育を支援することを通して子どもの育ちを地域ぐるみで支えることを目的としています。また、携わる地域の大人も、大人同士のネットワークが形成され、結果として家庭・地域の教育力の向上に結びつきます。

更に、本市独自の機能として、家庭・地域の教育力向上に向け、研修会やフォーラムなどを通して、地域の大人が当事者意識を持ち自らも地域の子どもを育てる一員であることを自覚し、地域の子どもの育ちについて考え、地域ぐるみの子育てに参画するよう、家庭・地域に直接的に働きかける活動も実践する機能を併せ持っています。

国は、「地域学校協働本部」が〈①コーディネート機能、②多様な活動、③継続的な活動〉の3要素を備えていることが重要であるとしています。本市の魅力ある学校づくり地域協議会は、地域コーディネーターを中心としたコーディネート機能を備え、多様な地域団体等の協力を得ながら、学校支援活動に留まらず、児童生徒の健全育成・安全確保活動や家庭・地域の教育力向上に係る活動など、多様かつ継続的な活動を実施してきました。これは、本市が、全国に誇れるものとなっています。

平成27年度に第1号目を発行しました「魅力ある学校づくり地域協議会活動事例集」は、本号が第7号目となります。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言の発令や一斉休校などがあり、協議会としても、活動の実施可否や活動の際の感染症拡大防止策を検討しなければならず、大変な1年間だったかと思えます。今後も、地域の実情に応じて、安全に配慮しながら活動を継続いただくことが重要となりますが、それぞれの協議会において実践されている先進的な取組事例を、全ての協議会で共有し、各協議会が抱えている課題解決の一助とするため、継続して発行していきたいと考えております。

本書が、それぞれの地域における「魅力ある学校づくり地域協議会」のより良い活動につながり、地域全体で子どもを育む「地域の教育力」のさらなる向上にむけた参考となれば幸いです。

活動事例

誰もが気持ちよく使えるトイレを目指して

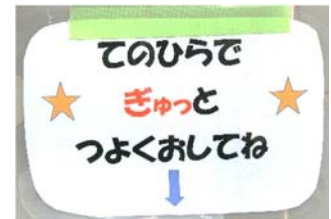
- 御幸小学校では毎月1回、地域のボランティアによるトイレ清掃支援を行っています。保護者からの「学校のトイレがきれいになると嬉しい」という声を受け、地域協議会を中心に、トイレ清掃の支援が行われるようになりました。
- 主に、学校の清掃の時間を使って、児童に正しいトイレ清掃の仕方を教える活動を行っています。ボランティアの方が口頭での丁寧な指導を行い、児童が実践を通して学ぶことで、今後、学校や家庭での清掃に活かしてほしいと考えています。
- そのほかにも、和式トイレに不慣れな児童も多いため、使用時の指導もボランティアの方が行っています。
- 学校が夏休み期間にあたる今回は、2日間にわたり、児童では清掃の難しい尿石の除去清掃が行われました。清掃活動は、清掃業者のアドバイスを参考にしたり、新たな清掃方法を試したりするなど、発展を続けています。夏休み以外にも、入学式や卒業式といった、年間の大きな行事の前には、必ずボランティアの方が清掃を行っています。
- また、地域協議会の発案で、水洗する際のポイントをトイレに掲示したり、汚れが気になったときにすぐに落とせるようにと、各個室に清掃用ブラシを設置したりするなど、児童の目線に立った環境づくりをしています。
- さらに、トイレ清掃を通じて、地域の人が学校や児童と関わる機会にもなり、清掃支援を受けて「トイレ清掃に前向きに取り組めるようになった」という児童の声も聞かれています。



8/3 尿石除去剤散布の様子



8/4 トイレ清掃の様子



地域協議会で作成したみんなでキレイに使うためのポイント！

【学校の声】

気持ちよく学校生活を送るうえで快適なトイレは欠かせません。しかし、日頃の清掃では時間が短く、先生の清掃指導場所も多いため、細かいところまで指導することが大変難しいです。地域協議会のボランティアの方々が、児童に指導しながら清掃してくださることで、トイレがきれいになることはもちろん、児童が清掃のコツを覚えることができるとともに、公共のものを大切にしようという意識が高まり、大変感謝しています。

【地域協議会の声】

「深呼吸できるトイレ」というのが、私たちの活動のモットーです。大変な作業が多いですが、その分やりがいも感じています。「自分が汚したら自分できれいにする」というのは、実は大人でも難しいことです。

子どもたちには、トイレの使い方を学ぶことで、誰もが気持ちよく使うためには、一人一人の心掛けが大切であることを伝えていきたいと思ひます。

【いいね！】

児童がトイレの正しい清掃方法を学ぶ良い機会となっており、心の成長を促すものとなっています。

保護者からの要望に対して地域協議会としてできることを考え、ボランティアがやりがいをもって活動しています。

地域と学校が協力できる体制が整っており、定期的に活動をしています。



地域協議会と保護者の連携活動「学校農園の畝立て」

- 「総合的な学習の時間」の食農体験学習として、5月に1年生がサツマイモの苗を植え、9月に2年生が大根の種をまきます。子どもたちの学習の準備のため、毎年、地域協議会が中心となり、5月は1年生の保護者を交え、8月は2年生の保護者を交え、学校農園の畝立てを行います。
- 今回は、土曜日の朝、地域協議会の委員の方々と2年生の保護者の方々が学校農園に集まり、畝立て及びマルチ張り、除草活動を行いました。
- 地域協議会の委員の方々は畝立て・マルチ張り、2年生の保護者の方々は除草と、作業を分担して行いました。毎年行っている活動ということもあり、皆さん作業が早く、次々にマルチを張った畝ができあがっていきました。
- 2年生が9月に大根の種をまいて、その後、間引きなどを行って育てていき、11月に収穫となります。
- 1年生が収穫するサツマイモは、給食の材料となり、2年生が収穫する大根は、宝木中の伝統行事である「断郊協歩大会」のときに、保護者の方々が作ってくださる豚汁の具材となります。子どもたちは、多くの地域の方々が関わっている食農体験学習を通して、「食の大切さ」「人との結びつき」「働くことの意義」などを学んでいきます。
(※なお、令和2年度は、サツマイモの苗植えと豚汁づくりは新型コロナウイルス対応のため中止となりました。)



耕運機で畝を作ります



協力してマルチを張ります



子どもたちのために頑張りました

【学校の声】

学校農園近くの保護者の方のご厚意により、農機具による作業ができ、暑い中での活動が軽減され、大変助かりました。

地域協議会が情報発信や情報収集をするなど、学校だけではできないことを地域協議会がしてくださり、学校を支えていただいています。

今後も、学校と地域とのつながりを大切にしながら、そのつながりがさらに広がっていくようにしたいと思います。

【地域協議会の声】

農業関係者が多い地域のため、農作業の活動のときは、地域の方々に積極的に御協力をいただき、大変ありがたいです。

様々な活動を通して、子どもたちとの触れ合いや、活動後の子どもたちの温かい言葉などがとてもうれしいです。

子どもたちには、「学校だけではなく地域にも味方になる人がいる」「地域も居場所なんだ」と思っていてほしいです。

【いいね！】

食農体験学習の授業準備として、学校農園の畝立てを地域協議会が中心となって行うことで、教師の働き方改革を踏まえた活動になっています。

地域協議会の多くの委員の方の参加が、保護者への、地域協議会活動の周知啓発となっています。



ズームを使ってリモート開催 「あいさつ標語表彰式」

- 岡本小学校では、あいさつに関する活動に継続して取り組んでいます。今年度はその他の活動も思うようにできない状況ですが、9月末に地域協議会主催の「あいさつ標語表彰式」を行いました。
- 全校児童が考えたあいさつ標語はどれも素晴らしく選ぶのが大変でしたが、最終的に優秀賞3つと入選9つを地域協議会で選びました。集まるのは難しかったため、郵送にてやり取りしました。
- 表彰式は、例年であれば体育館にて全校児童も集まって開催しますが、今年度はインターネット会議サービス「ズーム」を利用しました。受賞者は校長室での表彰式に参加し、教室にいる子どもたちは各教室からテレビで表彰式の様子を視聴しました。
- 地域協議会会長の中新井さんは、一人ひとりに賞状を渡したあと、全校児童に向けてこんなお話をしました。「あいさつは心を込めてすれば、必ず相手に伝わります。私も自分の親から『あ』かるく、『い』つでも、『さ』きに、『つ』づけよう」と教わりました。皆さんも笑顔で、今から『あ・い・さ・つ』を始めましょう」
- 受賞した子どもたちからは、「あいさつがもっと好きになった」「改めてあいさつの大切さを考えられた」「がんばって考えたので、受賞できてうれしい」「みんなの標語もすごいと思った」との声が聞けました。
- 後日、受賞したあいさつ標語を看板として設置し、保護者や地域の人も見られるようにしました。子どもたちのあいさつで、学校と地域のつながりがさらに深まっています。



表彰式をパソコンで
各教室に生中継



ぴかぴかの看板を設置

【学校の声】

昨年度までも、学校の授業や清掃から、運動会のテントの設営まで、地域の方が多く関わってくださり、大変助かりました。

今年度は、表彰式のために学校のズームを利用するなど、3密を回避しながらどのような活動が可能かを、学校も地域の方と探りながら進めています。これからも、子どもたちの安全安心と学習の機会を、地域の方と一緒に守っていきます。

【地域協議会の声】

地域で登下校を見守っていると、低学年の子が年上の子の様子を見聞きして、元気なあいさつをしてくれるようになりました。標語も、地域のことを盛り込んだものが多かったように感じました。

活動を通じ、学校の仕組みや学校での子どもたちの様子が分かり、大人同士のつながりも増えるので、参加して良かったと思います。

自治会や老人会、PTA等と協力し、引き継ぎながら工夫しています。今後、新たな取組みにも挑戦したいです。

【いいね！】

これまでの活動の積み重ねから他団体等との役割分担が行われており、学校と連携しつつ、子どもたちの日常生活を守っていました。

制限が多い状況下で、検討を重ね、安全安心と子どもたちのための活動を両立していました。



子どもから大人まで、通る人々の憩いの場を作る「ひがしの花園隊」

- 東小学校の南側にある花壇は、地域協議会が主催する活動「ひがしの花園隊」によって、四季折々の草花が咲く美しい花壇となっています。「ひがしの花園隊」は、だいたい月に1回のペースで10人前後の方々が活動しており、この日は、地域コーディネーターさんを中心に6名が花壇の整備を行いました。中には、コーディネーターさんの声掛けによって学区外からも手伝いに来てくださっている方もいました。
- 昨年度は、台風19号による田川の氾濫で花壇が浸水したため、植えた植物が流されてしまい、土砂が花壇を覆っている状態でしたが、ひがしの花園隊が土の入れ替えなどを行い、今年の春には例年通りたくさんのチューリップが咲くまでに回復しました。
- 取材当日は、雑草を抜いて、花壇の中の通路に玉砂利を敷き詰めるほかに、放課後子ども教室の子どもたちが作った色とりどりのレンガを並べて、通路の縁を飾るなどの活動を行いました。
- 活動中に、休み時間に外で遊んでいた子どもたちが、花壇の近くにきてボランティアさんに話しかけたり、通りすがりの方から「いつもきれいにしてくださってありがとうございます。」と声をかけられたりと、多くの方がこの花壇と活動に目を向けていました。花壇は学校の敷地外にあるので、通勤や通学で通る人たちにとっても、癒しの場所となっています。
- 東小学校地域協議会では、ほかにも、校内のあらゆるところに季節ごとの掲示物を飾る「かべ飾り隊」など、放課後子ども教室とも連携して、様々な活動を行っています。



手分けして雑草を抜きます



放課後子ども教室で児童が作成したカラフルなレンガ



きれいになりました！

【学校の声】

昔は、ごみが捨てられていたり、雑草が生い茂っていたりと荒れた花壇でしたが、ひがしの花園隊の活動のおかげで、華やかな花壇となり、東小の子どもたちや学校の前を通る方々の癒しの場となっています。保護者だけではなく、元PTAの方や地域の方にまで活動が広がり、一生懸命活動してくださって本当に感謝しています。

【地域協議会の声】

入学式の頃には、200本ものチューリップが咲き、新生や保護者の方が近くで写真を撮るなど、思い出に残る場所になってくれていてうれしいです。

今後は、保護者が参加しやすい環境を整えるために、親子で参加できるガーデニング体験を企画するなど、子どもたちに喜んでもらえるような活動に取り組んでいきたいと考えています。

【いいね！】

ボランティアの皆さんが、声を掛け合いながら、楽しく活動している姿が印象的でした。この活動を通して、一緒に活動している子育ての先輩に、子育ての悩みを相談したり、不安や心配事を共有したりする機会にもなっているようです。保護者同士の交流のきっかけづくりにつながっています。



家庭科学習支援「ミシンを使った製作活動」

- 5年生の家庭科の「ランチョンマット」を製作する授業で、5名のボランティアの方々が、ミシンとアイロンを使う子どもたちへの学習支援活動を行いました。
- この日までに、初めてミシンを使う子どもたちに、上糸・下糸の取り付け方、から縫い、まつり縫いの練習などの支援を行ってきました。
- 授業が始まる前の休み時間中に、各テーブルで使うミシンとアイロンを、子どもたちがすぐに製作活動を始められるようにセッティングしておきます。
- 製作活動が始まると、ボランティアの方々は、支援が必要な子に気付いたらすぐにその子に寄り添い、縫い方のポイントを伝えたり、一緒に作業したり、しっかり縫えているか確認したりしていました。そしてまた、ほかの子どもたちに「大丈夫?」「できたかな?」と声をかけて、次々に子どもたちと関わっていました。
- 子どもたちもボランティアの方々の話をよく聴いて、わからないことは積極的に質問していました。これまでの学習支援活動を通して、子どもたちとの関わりを積み重ねてきたことにより、お互いの信頼関係を築いてきたように感じました。
- ミシンのトラブルに素早く対応したり、子どもたちの製作状況から必要なくなったミシンやアイロンを片付けるなど、ボランティアの方々が、常に自分たちで判断して行動する姿があり、子どもたちのよりよい学びとなるよう、積極的に活動していました。



ミシンとアイロンをセッティング



縫うところを一緒に確認



子どもたちへの積極的な声かけ

【学校の声】

子どもたちがミシンやアイロンでけがややけどなどをしないように、ボランティアの多くの目で見守っていただき、子どもたちも安心して活動できます。また、いろいろな支援が必要な子どもたちに個々に対応していただき、学力や技能の向上につながる学習支援活動となっています。

子どもたちには、様々な場面で活動している地域の人たちに目を向けさせ、地域の人たちに支えられていると実感する場を設けていきたいです。

【地域協議会の声】

家庭科のほかにも、書写指導やプール指導、教材の作成など様々な学習支援活動を実施しています。年度初めにボランティアの募集をするときに、自治会の回覧板で地域の人たちにも募集を呼びかけ、ご協力いただいています。

地域の人たちとの関わりは、子どもたちにとってよい経験となるので、学習支援活動の充実により、子どもたちと地域の人たちとの関わりを深めていきたいです。

【いいね!】

子どもたちのためにというボランティアの方々の強い思いが活動に表われていました。

支援を必要としている子を探し、手順を確認したり、お手本を示したりするなど、自ら積極的に支援していくことで、限られた時間の中で、子どもたち全員の学びが確保されていました。



姿一の大フジを守る「フジ愛護会」活動

- 姿川第一小学校の校庭には、宇都宮市指定天然記念物の大きなフジがあります。茨城県の笠間稲荷神社に植えられていた「三尺フジ」に由来し、昭和5～6年頃に学校に寄贈されたもので、以来、姿一小児童やPTA、地域の皆様に、学校のシンボルとして愛され続けています。
- この姿一小のフジを守り育てるため、定期的につるの剪定や追肥、落葉清掃などを行っているのが、「フジ愛護会」です。
- フジ愛護会は、地域協議会の方や、PTA役員の方、地域の方などにより構成され、会員数は40名以上。毎年、4～5回の活動を行ってきましたが、今年は新型コロナウイルスの影響で、3回の活動になるとのことでした。
- 毎年、児童会主催の「ふじ集会」を行っています。フジの前に全児童とフジ愛護会の方々が集まり、児童から愛護会の皆さんへ感謝の気持ちを伝えたり、「フジウォークラリー」などのゲームで、交流を深めたりしています。今年は残念ながら「ふじ集会」は、開催されませんでした。が、「フジウォークラリー」は、例年と違う形で実施します。
- 今年は、なかなか本来の活動を行うのが困難な状況ですが、ミシンボランティアなどの学習支援や、毎週1回の図書整理など、できる活動から徐々に再開しています。
- 皆さんの、笑顔で楽しそうに活動される姿が、とても印象に残りました。



樹木医のアドバイスを受けながら、手際よく剪定します。



剪定した枝を、掃いて集めて、きれいにします。



☞ 姿一小のキャラクター
“フジリン・フジリン”

【学校の声】

地域協議会の皆さんをはじめ、PTAや地域の皆さんには、日頃から様々な支援をしていただき、本当に感謝しています。

本校のシンボルであるフジも、皆さんの協力なしでは、守り育てていくことができません。

子どもたちの憩いの場であるフジが、この先もずっと見事な花を咲かせられるよう、これからもご協力をお願いします。

【地域協議会の声】

地域の皆さんは、いつも大変協力的で、声をかければたくさんの方が集まってくれます。孫がいる方や、子どもの卒業後も関わってくれる方などもいて、とても有難いです。

今年は、できない活動が多くありますが、この「フジ愛護会」の活動など、子どもたちのためにできることを、一生懸命やっていきたいと思えます。

【いいね！】

こんなに立派な藤棚は見たことない！という程の、とても大きな藤棚のもと、愛護会の皆さんは、笑顔で活動されていました。剪定して、掃いて、集めて、まとめる。よいチームワークでテキパキ作業する姿から、日頃からの人間関係の良さを感じました。

来年もきっと、すてきな花を咲かせてくれますね。



子どもたちの委員会活動を支える図書ボランティア

- 瑞穂野中学校の図書室前の壁面には、季節のイベントをテーマにした壁面飾りが掲示されています。この飾りは、地域協議会の図書ボランティアが色画用紙を切って部品を作成し、後日、図書委員となっている生徒が組み合わせ、貼り付けをする共同作業によって完成させるものです。
- この活動は、平成25年ごろから2か月に1回程度実施しています。図書委員会の生徒だけでは、限られた委員会活動の時間で飾りを完成させることは難しいですが、図書ボランティアのおかげで、飾りの作成を短時間で行うことができ、ほかの活動にも時間を使うことができます。
- この日は、12月のクリスマスをテーマにした壁面飾りの部品を作成するために、6名のボランティアが集まりました。
- 地域の方々と司書の先生が相談しながら分担を決め、各自の作業に取り組んでいました。1人1テーブルで作業を行うなど、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じたうえで活動しました。
- この図書ボランティアには、瑞穂野地区の小学校3校（瑞穂野北小、瑞穂野南小、瑞穂台小）の地域学校協働活動推進員も参加しており、それぞれの活動の様子を共有する機会になっています。また、地元出身ではない人にとっては、地域のことについて情報収集ができる場にもなっているようです。
- 図書室前の壁面飾りが変わると、生徒たちから、「飾りが変わったね！」という明るい反応が司書の先生を通じて届くので、ボランティア活動のエネルギーとなっています。



司書の先生とイメージを相談中



作成した壁面飾りの部品



図書委員会で完成させた飾り

【学校の声】

瑞穂野地区は、小中学校と地域の距離がとても近い地域だと感じています。小学生が参加する地域のイベントに、中学生がボランティアとして参加することで、それを見た小学生が自然とボランティアとして参加するような環境が整っています。行事の時に地域の方からあいさつをしていただくと、子どもたちの気も引き締まり、やる気が出るようです。いつも子どもたちのことを見守っていただき、ありがとうございます。

【地域協議会の声】

直接子どもたちと関わる機会は少ないですが、図書委員会の活動のお手伝いをすることができ、うれしいです。図書委員会の子どもたちが完成させた作品を、次回の活動に来た際に見るのが楽しみになっています。共働きの保護者も多いので、チラシや回覧板を使って、保護者の方と相談しながら活動を続けていければと思います。

【いいね!】

地域協議会と生徒の代表である生徒会による「目指す生徒像」の話し合いや、放課後の自習をサポートする「地域未来塾」の実施など、新しい活動も積極的に行っています。学業や部活動、塾などで忙しい生徒たちも、地域協議会の活動を通じて、地域の方々とつながることで、応援されていると感じることが出来ます。



地域と児童をつなぐ場にもなる 「世代間交流」

- 「世代間交流」は、開始から20年近くが経つ活動です。この活動は、核家族化が進み、世代間交流が減っている背景のもと、学校と地域が連携して何かできないかとの思いから始まりました。
- 内容は、学年ごとに異なり、6種類あります。その内容は、学校で学ぶ教科とのつながりを大切にしています。例えば、6年生が行う「手打ちうどん」づくりは、家庭科を意識しています。「うどん」を選んだ理由は、篠井地区の特産品でもあり、地元の自慢（郷土愛）にもつながるからです。（※令和2年度は、感染症拡大防止のため、「うどん」作りは中止となりました。）
- 今回の取材は、2年生の「紙飛行機で遊ぼう」でした。1・2年生はともに「昔遊び（生活科）」がテーマですが、1年生は、“作ってあるもの（お手玉など）”で遊び、2年生になると、“身近なものを使って自分で作って”遊ぶため、内容がステップアップします。
- 紙飛行機は地域の方が講師となって、2年生に教えます。少し難易度のある折り方でしたが、「良く飛ぶ紙飛行機だから」との励ましもあり、作業に集中して取り組むことができました。完成後、飛ばすときの注意点や良く飛ばすためのコツ、うまく飛ばないときの調整法などを伝授され、アドバイス通り実践してみると、とてもよく飛び、子どもたちから歓声があがりました。
- 何度も飛ばして遊ぶ子どもたちには笑顔があふれ、その姿を見た地域の方もまた笑顔になり、今年も楽しい交流の時間となりました。



自分の手で完成できるように、お手本を見せながら、丁寧にアドバイス。



よく飛ぶためのコツは「真っすぐ前に押し出すように」すること。



担任作「たくさんとぶよ！2年生号」が完成。“大人対子ども”で飛距離対決をするのも楽しそう。

【学校の声】

「心豊かでたくましく生きる児童」を育む教育を目指す本校にとって、「ふれあい活動」は大きな柱となっています。その中でも世代間交流では、子どもたちが地域の方に様々なことを教わるということだけではなく、感謝の心や地域を大切にしようとする気持ちを高め、人とのつながりをも学んでいます。地域の方々も子どもたちと関わることで、より篠井小学校を理解してくださっているのではないかと思います。

【地域協議会の声】

子どもたちが、自分の住んでいる地域の方々と交流した経験は、これからの人生にとって、「コミュニケーションの礎」となる、とても大切な経験であると思っています。今後は、現在協力していただいている方々に加え、地域の子どものために、一人でも多くの地域の方々に、関わっていただきたいと考えています。

【いいね！】

学年ごとに異なる活動内容で実施し、さらに、最上級生では、この交流活動の締めくくりとして、「手打ちうどん」作りを行うことにより、地元の自慢を、体験を通して理解できる流れが素晴らしいです。児童に伝えたい地域の良さ（地域資源）を有効に活用している好事例です。



地域と学校が一致団結！クリーンアップキャンペーン

- 宮の原小学校では毎年12月になると、地域のボランティアと宮の原小学校の5・6年生の児童、一条中学校の有志が集まり、グラウンドの落ち葉を清掃する「クリーンアップキャンペーン」を行っています。
- クリーンアップキャンペーンは、もともと学校や地域団体が個別で実施していた清掃活動を、地域一丸となって取り組むことを目的に共催で始めたものです。
- 今年は感染症を考慮し、「児童は勉学と安全を優先してほしい」という地域の方の思いから、児童は参加せず、地域のボランティアと教職員が力を合わせて清掃活動を行いました。
- 寒さの厳しい日でしたが、朝8時40分には、想定の2倍以上となる50余名のボランティアが校庭に集まりました。地区ごとにチームを作り、花壇や植木の間まで丁寧に落ち葉を掻き出しながら、熱心に清掃を行っていました。当初、アスファルトやグラウンドの一面を覆っていた落ち葉は、1時間とかならずにきれいになりました。
- ボランティアの方からは、「感染症の影響もあり、何かと大変な学校の助けになればと思って参加しました。」「学校と地域がキレイになることは、とても気持ちのいいこと。」といった声が聞かれ、地域の方の温かい気持ちを感じられた活動となりました。
- クリーンアップキャンペーン後は、ボランティアの方の想いを引き継ぎ、宮の原小学校児童有志による「落ち葉はきボランティア」が、きれいな学校を守っていきます。



↑開会式の様子



↑↓きれいな学校を目指して隅々まで丁寧に掃除します。



【学校の声】

多くの地域の方が学校の活動に協力してくれており、大変心強く思っています。

今年はコロナ禍の影響で児童の参加はありませんでしたが、清掃活動は、児童が学校のために力を貸してくれる地域の人がいることを知る機会となっています。

清掃活動等で頻りに顔を合わせることで、児童と地域の人とが顔なじみになり、安全・安心な地域づくりにもつながっています。

【地域協議会の声】

地域の皆さんは、宮の原小学校に愛着を持ち、活動に参加してくれています。例年、児童とボランティアとが交流し、楽しみながら清掃をしている様子を見て、私たちも元気をもらっています。

今年は残念でしたが、今後も清掃活動を継続していくほか、学校に協力できる活動へ積極的に関わっていきたいと考えています。活動を通して、地域の輪を強くしていきたいです。

【いいね！】

地域の方が、学校美化のボランティア活動に進んで参加しており、活動を通して、地域全体が活力を得ることに繋がっています。

清掃などの地域活動をきっかけに、地域の方が児童の様子を見守り、地域ぐるみで子どもたちを育てる関係作りができています。



さむ～い冬に あったかくてあま～いお芋！

「焼き芋の会」

- 平石中央小の子どもたちは、春にさつま芋の苗を植え、秋にたくさんのお芋を収穫しました。このさつま芋を使って、土曜授業に合わせ、地域協議会主催の「焼き芋の会」を開催しました。
- 感染症対策を実施しながらどのような活動が可能か、自分たちで無理なく楽しくできるかを地域協議会として話し合い、今回の「焼き芋の会」では、落ち葉集めや消防署の許可、さつま芋洗いなどの前日までの準備は主に学校側が、当日の作業は地域協議会が行いました。
- 当日集まった地域協議会委員の皆さんは、落ち葉や小枝に火をつけ、どんどん燃やして火を大きくして炭を作り、芋を並べ、落ち葉を被せてさらに扇いでと作業を重ね、できあがりまでおよそ3時間もかけて焼き芋を作りました。前回よりも焼き芋がうまくなってきたことを喜びつつも、「来年やるときは端の方に芋を寄せた方が、きっと火が通りやすいね」と次回のことを話しながら、子どもたちに焼き芋を渡す準備をしました。
- 土曜授業が終わった後、焼き芋を受け取りに来た子どもたちは、「まだ温かい！」とびっくりしたり、「自分で育てたさつま芋が焼き芋になった」と喜んだりと笑顔を見せていました。



2つのかまどで
どんどん燃やします



甘～い焼き芋ができました！



空き時間で
通学路に置くプランター作り



【学校の声】

地域協議会を通じて様々な方が関わってくださっており、「こうしたい」「これが手元にない」と相談すると、詳しい方の紹介や「それ持ってるよ」と仰ってくださいます。大変ありがたく、頼りにしています。

今後も、学校と地域の協力体制で、小規模校ならではの機動力を生かして、子どもたちの成長を見守っていきます。

【地域協議会の声】

私たちは、できることからできるときに、PTAとはまた違った活動に取り組んでいます。今年度は広い会場に変更して、定期的な協議会を継続しています。

子どもたちのための活動を継続していけるよう、状況が許す限りでもっと関わる人を増やし、自分たちも楽しい活動を増やしたいと考えています。

これからも、安心安全でのびのびと楽しい学校生活の後押しとなるよう、活動していきます。

【いいね！】

子どもたちの笑顔はもちろん、実施側としての楽しさと試行錯誤で、活動継続につなげています。

地域と子どもたちも顔見知りになり、学校と地域の連携による地域ぐるみの子育ての体制ができています。



学校周辺の野鳥を観察

- 野鳥観察を通して児童に地域の豊かな自然を実感してもらおうと、田原小の西側を流れる山田川沿いのサイクリングロードを下流に向かい歩きながら「探鳥会」が行われました。
- この日は、地域協議会の、増淵会長、櫻井副会長、そして河内町猟友会の大森さんの案内で、5、6年生が学校周辺に生息する野鳥の観察を行いました。
- 29年前に始められたこの活動は、冬の恒例行事として学年ごとに毎年12月と1月に行われています。
- 観察の前に、次の活動のねらいを増淵会長が話をされました。
 - ①男体・女峰～♪と校歌にもあるように日光連山を背景に、里山の風景が残る自然豊かな環境にある田原小学校で学べることの誇りを醸成して、情緒豊かな児童になろう。
 - ②6年間を通して、山田川周辺にいる野鳥を観察することで、野鳥や自然の素晴らしさを感じとり、自然を大切に作る心を育てよう。
 - ③落葉樹が多いので観察しやすい冬季に、山田川の流水や貯留水がある環境を生かして発見力・観察力・思考力・判断力・記憶力・表現力を育む力を身につけよう。
- 曇り空で、北風が冷たい中での観察でしたが、子どもたちは、双眼鏡や望遠鏡をのぞき込み、カモやアオサギなどこの日だけで約20種類の野鳥を観察しました。特に、キセキレイが川面をつつきながら餌を食べるところや、カワセミが低空飛行する姿など、普段見ることの出来ない鳥の習性を観察することができました。



子どもたちの調査を見守り



アオサギ



カモの群れ



キセキレイが川面の虫を食べているところ

【学校の声】

田原小学校魅力ある学校づくり地域協議会では、多くの地域の方々の協力を得ながら「豊かな心や健やかな体をもつ子どもたちの育成」等を目的に、「あいさつ標語の募集・表彰」「学校に泊まろう」「音楽のつどい」など多くの事業が実施されています。「探鳥会」はその代表的なものです。

今後も、学校・家庭・地域の連携の活性化を図り、「地域とともにある学校づくり」を推進していきたいと思えます。

【地域協議会の声】

平成23年度に発足した本協議会は、四部会から構成されており、学校と連携しながら第三次地域協議会5カ年計画に基づいて活動しています。その一環として野鳥観察会の講師を務めました。

地域の皆様と共に考え、揃いの協議会Tシャツを着て各事業の経験を共有し、地域に根ざした学校づくりを支援することは、地域の子供たちへの大きなプレゼントと認識しています。今後は知恵を絞り、「新しい生活様式」での協議会活動を行って参ります。

【いいね!】

校外の川沿いを歩きながらの活動なので、地域協議会と学校が連携し、安全に配慮しています。

学年ごとに行うなど、十分な観察ができるよう工夫されています。継続して行われている活動なので6年間で約40種類の野鳥を観察できます。

探鳥会は自分のできる環境保全活動などを考える良い機会になっています。



社会総ぐるみによる人づくりの「合言葉」

『育もう 地域の愛で 子どもの未来』

～大人が子どもの手本となり，みんなで人間力を高めます～

「魅力ある学校づくり地域協議会」

活動事例集 第7号

発行：令和3年3月 宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課
〒320-8540 宇都宮市旭1丁目1番5号 宇都宮市役所
TEL 028-632-2679
FAX 028-632-2675
E-mail u4606@city.utsunomiya.tochigi.jp
